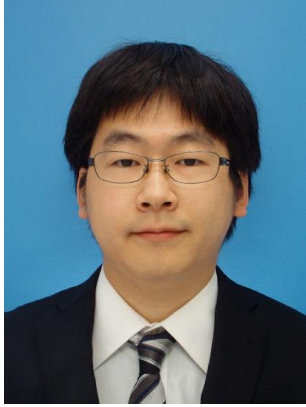


国際会議等参加費支援 受給者報告

IEEM2023 に参加して in シンガポール

茨城大学大学院理工学研究科博士前期課程 情報工学専攻 2年 吉田祐次郎



2023年12月19日及び20日にて、私は国際会議「IEEM2023」(IEEE International Conference on Industrial Engineering and Engineering Management 2023)に参加しました。IEEEは電気・電子分野の学会で、IEEMはその内の経営工学分野を扱う学会です。本学会はシンガポール、マリーナベイ・サンズのサンズエキスポ&コンベンションセンターを会場として行われました。

私は「Study on Operator Assignment Considering Operator Absence in Cellular Manufacturing System」という題目で、セル生産現場において作業者の不在を、計画を立てる段階から考慮した作業者配置の研究を口頭発表しました。会場となった場所は大きいですが、会議室がいくつもあり、私が発表するセッションを聴講していた人は15人程度でした。初めて国際会議に参加したこともあり、はじめはどのような意見や質問が飛んでくるのかと若干緊張していましたが、雰囲気はそこまで固いわけはありませんでした。チェアマンから質問が飛んできたときに、はじめは英語を聞き取れなかったのですが、隣にいたもう一人のチェアマンが優しく言い換えてくれたため、質問を理解することができました。おかげで私はその後もリラックスして参加していました。私が参加したことのある国内の学会とほとんど同じ雰囲気だったため、英語さえある程度聞き取ることができ、話すことができれば、国際学会は国内の学会と同じ心持で参加することができるかもしれませんね(学会によって違うかもしれませんが)。質問自体も、国内で発表したときと同じような質問であったため、国が違おうとしても、同じ分野を研究している人は皆同じような視点を持っているのだなと感じました。

私の発表自体は20日の朝でしたが、前日から学会自体は始まっており、19日はビュッフェ形式の昼食に参加し、会場や参加者の雰囲気をつかむことができました。20日には発表終了後、軽食(朝食?)を同じくビュッフェ形式で会場で頂きました。同じセッション内で発表していた方と少しだけ会話したりと、他国籍の方と交流した貴重な機会でした。

シンガポールは赤道付近ということもあり蒸し暑い気候でしたが、街中はクリスマスムードで、日本との違いをひしひしと感じました。私は海外にあまり行きたいとは思っていないので、こういった経験は人生において貴重な経験だったと感じています。

国際会議に参加して、初の海外ということもあり、これまでになかった経験や感覚がありました。食事や街の雰囲気、人柄や交通、言語など、普段とはかなり異なる物事を経験しましたが、学会を通して私が一番感じたのは、設備等といった点は置いて、研究をするにあたっての視点等は国によってはあまり変わらない、私たちにとってなじみやすいものであるという点でした。